

2026

11/1



13:00-17:15 開場12:30

国立美術館コレクション・ダイアログ
松方幸次郎 × 山村徳太郎
蒐集のパッション
「ロダンを日本へ、
具体を世界へ」

記念シンポジウム

「美術館における彫刻の活用と管理」

会場

兵庫県立美術館 KOBELCOミュージアムホール

神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 〒651-0073（最寄駅：阪神岩屋駅/JR灘駅/阪急王子公園駅）

申込方法

先着順（定員150名）＊聴講には本展覧会観覧券が必要です

この秋、兵庫県立美術館では、「国立美術館コレクション・ダイアログ 松方幸次郎×山村徳太郎 蒐集のパッション ―ロダンを日本へ、具体を世界へ」展を開催します。

西洋美術を日本へ紹介することを志した松方幸次郎と、戦後日本の前衛美術を未来へ残そうとした山村徳太郎。二人が情熱を注いで集めた作品は、時を経て美術館に託され、いま私たちの前にあります。

では、託された作品を、美術館はどのように守り、未来へつないでいくのでしょうか。

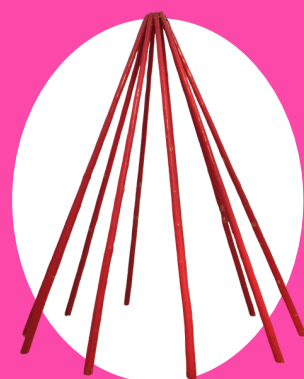
展覧会に関連して開催する本シンポジウムでは、彫刻作品の保存修復に焦点を当てます。第1部では、国立西洋美術館が所蔵するロダン作品の修復を手がけた修復家と、ロダン作品を数多く所蔵する美術館の学芸員を迎えます。制作技法や作品の保全・活用に目を向けながら、作品を知り、その価値を未来へ伝えていくことの意味を考えます。

第2部では、金属、石、複合素材を専門とする、美術館の保存修復担当学芸員3名が登壇します。素材の特性によって異なる保存上の課題や、日々の管理、修復のあり方を通して、美術館における彫刻作品の保存修復をひもときます。

「蒐集」から「継承」へ。作品がそこにあり続けるために、その未来を支える美術館の仕事に触れ、ともに考える機会となれば幸いです。



オーギュスト・ロダン 《考える人》
1881-82年 ブロンズ
国立西洋美術館（松方コレクション）
撮影：©上野剛宏



下／白髪一雄 《赤い丸太》
1955/1985年 ペンキ・木
兵庫県立美術館（山村コレクション）



白髪一雄 《超現代三番叟》
1957/1985年 布、紙、竹、ラッカー
兵庫県立美術館（山村コレクション）

プログラム

13:00 開会

13:05～ 第1部 ロダンの制作技法と作品の活用 司会：江上 ゆか（当館 学芸員）

「ロダンの彫刻とその活用・保全について」 新田 建史（静岡県立美術館 上席学芸員）

「ロダンの彫刻について」 藤原 徹（仏国認定保存修復家／前東北芸術工科大学教授）

クロストーク

休憩

14:50～ 第2部 美術館における彫刻作品の修復・メンテナンス 司会：横田 直子（当館 保存・修復担当課長）

「国立西洋美術館のブロンズ作品メンテナンスについて」 邊牟木 尚美（国立西洋美術館 主任研究員／保存修復室長）

「安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄における屋外作品の保存とメンテナンス」

土谷 あすか（安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄 研究員）

「兵庫県立美術館の立体作品のメンテナンスについて」 岩松 智義（当館 保存・修復担当学芸員）

クロストーク

16:55～ 総括 林洋子（当館 館長）

17:15 閉会 ＊閉館18時



美術館HP

お問合せ先 Tel 078-262-1011



国立美術館コレクション・ダイアログ

Collection DIALOGUE

兵庫県立美術館
HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART